

Minimal

DIC
Color & Comfort

ミニマル/コンセプチュアル

ドロテ&コンラート・フィッシャーと1960-70年代美術

2021年10月9日[土]—2022年1月10日[月・祝]

Conceptual

Dorothee and
Konrad Fischer and
the Art Scenes in
the 1960s and 1970s

October 9, 2021–
January 10, 2022

DIC川村記念美術館

Kawamura Memorial DIC Museum of Art

千葉県佐倉市坂戸631 | Tel. 050.5541.8600 (ハローダイヤル)

開館時間 10:30–16:00 (入館は15:30まで)

休館日 月曜(ただし1月3日、10日は開館)、12月25日[土]–1月1日[土]

入館料 一般1,300円、学生・65歳以上1,100円、小中学生・高校生600円

主催 DIC株式会社、共同通信社

共催 ノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館 [デュッセルドルフ]

協力 日本航空 後援 ドイツ連邦共和国大使館、ゲーテ・インスティテュート東京、
千葉県、千葉県教育委員会、佐倉市、佐倉市教育委員会

カール・アンドレ《雲と結晶/鉛、身体、悲嘆、歌》1996年
© Carl Andre / VAGA at ARS, NY / JASPAR, Tokyo 2021 G2589

Kunstsammlung
Nordrhein-Westfalen

This exhibition is co-organized by and based on works from
the Kunstsammlung Nordrhein-Westfalen, Düsseldorf.

ミニマル/コンセプチュアル

ドロテ&コンラート・フィッシャーと
1960-70年代美術

Minimal/Conceptual:

Dorothee and Konrad Fischer and
the Art Scenes in the 1960s and 1970s

2021年10月9日[土]—2022年1月10日[月・祝]
October 9, 2021—January 10, 2022

本展は事前予約制です

ご来館前に日時指定のオンラインチケットを
ご購入ください。
定員に空きがある場合に限り、
当館窓口でも当日チケットを販売いたします。



新型コロナウイルスの感染状況により、
やむを得ず記載内容を変更する場合がございます。
ご来館前に最新情報を当館ウェブサイトにて
ご確認ください。



<https://kawamura-museum.dic.co.jp>



SNSにて
情報を
発信しています

次回企画展「カラーフィールド展(仮称)」2022年春

自動車

東関東自動車道「佐倉IC」より、国道51号を千葉方面へ進み
「坂戸」交差点を左折、県道22号線(八街横芝線)を八街方面へ
約700m直進右手(約10分)、無料駐車場300台

東京駅から高速バス

八重洲北口から徒歩5分、京成バス3番のりばから
「マイタウン・ダイレクトバス」に乗車(約60分)

行き || 東京駅9:55発→美術館11:02着

帰り || 美術館15:29発→東京駅16:42着

料金 || 大人片道1,360円

問い合わせ先 || ちばグリーンバス Tel. 043.481.0808

運行時間などに変更が生じる可能性があります。

最新情報は「ちばグリーンバス」へお問い合わせください。

東京駅からJR

JR総武快速線エアポート成田で「佐倉駅」下車(約60分)、
南口の美術館バス停より無料送迎バス(約20分)

上野駅から京成電鉄

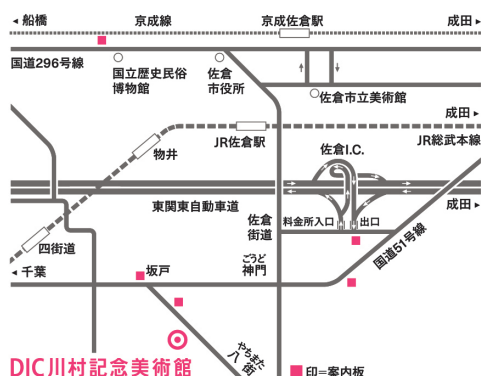
京成本線特急または快特の成田方面行きで「京成佐倉駅」下車
(約60分)、南口「シロタカメラ」前より無料送迎バス(約30分)

DIC川村記念美術館

Kawamura Memorial DIC Museum of Art

千葉県佐倉市坂戸631

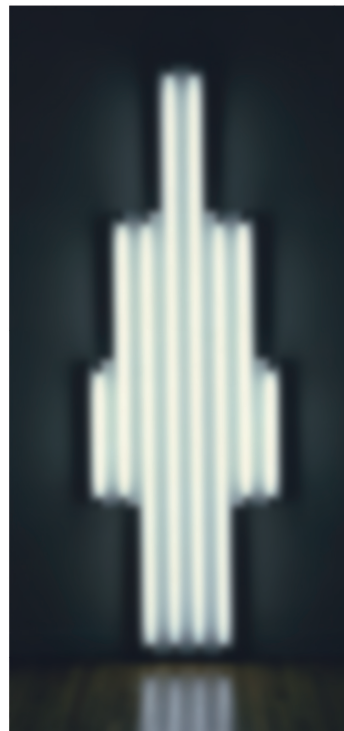
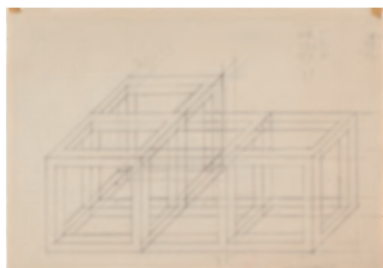
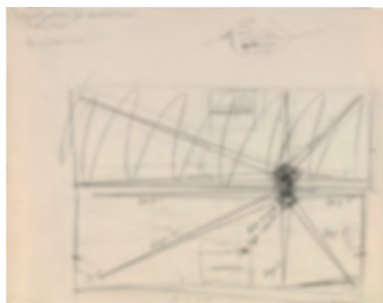
Tel. 050.5541.8600(ハローダイヤル)



DIC川村記念美術館

■印=案内板

DIC株式会社 — 化学で彩りと快適を提案する —



1

ミニマル・アートは1960年代に主にアメリカで展開した美術の潮流として知られています。レンガや金属板、蛍光灯といった工業用素材や既製品が使用されること、正方形や立方体などの単純で幾何学的な形態やその反復による構造が一般的な特徴として挙げられます。作家の感情の痕跡や身振りを伴う表現を排し、作品はその物質性を前景化させます。

ミニマル・アートに続いて現れ、同時代に拡がりを見せたコンセプチュアル・アートは、実際の制作物以上に、もともととなる考えを作品の成立条件として重視します。芸術にとって最も重要な要素はアイデアやコンセプトだと考えたのです。特定の形態に限定されることなく、言葉をはじめ、写真、映像、印刷物、日用品、自然物、そして作家自身の身体など多様な媒体や形式が用いられました。

こうした新しい傾向をもつ芸術を紹介する国際的な拠点のひとつとなったのが、コンラート・フィッシャーが1967年にデュッセルドルフに開いたギャラリーでした。フィッシャーはアメリカやヨーロッパの若いアーティストたちとコンタクトを取りながら、斬新なプロセスで展覧会を実現させていきます。完成した作品を高い費用をかけて海外から輸送するよりも、作家本人をデュッセルドルフに招いて現地で制作する方法がとられました。または作家が記した指示書に基づき、フィッシャーをはじめ、職人やエンジニアなどが制作と展示設営を遂行しました。

2 3

4 5



フィッシャーは妻のドロテとともに、展覧会を手がけた作家たちの作品を蒐集し、同時に書簡や指示書、展示のためのドローイングといった多彩な資料も記録、保管してきました。本展では、故フィッシャー夫妻のコレクションを収蔵したノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館の全面的な協力のもと、1960年代から70年代のミニマル・アートとコンセプチュアル・アートを中心とした貴重な作品や、その生成を紐解くアーカイブを展覧します。さらに、国内所蔵の主要作品を加え、異なる主張や特性を有しながらも、芸術とは何かを問い直し、今日のアートにも多大な影響を与えたこれらの芸術動向を振り返ります。

6 7

8

1 ブルース・ナウマン〈コンラート・フィッシャーのための音に関する6つの問題(#122)〉1968年 | © 2021 Bruce Nauman/ARS, New York/JASPAR, Tokyo G2589

2 ブルース・ナウマン〈コンラート・フィッシャーのための音に関する6つの問題(#294)〉1968年 | © 2021 Bruce Nauman/ARS, New York/JASPAR, Tokyo G2589

3 ロバート・ライマン〈ブルー・ライン・ドローイング #2(#69.224)〉1969年 | © 2021 Robert Ryman/ARS, New York/JASPAR, Tokyo G2589

4 カール・アンドレ〈5×20 アルトシュタットの長方形〉(1967年)の展示でのコンラート・フィッシャーと訪問者たち(1967年10月21日、フィッシャー・ギャラリーのオープニングにて) | Photo: Fred Kliché (Archiv Dorothee und Konrad Fischer) © Carl Andre/VAGA at ARS, NY/JASPAR, Tokyo 2021 G2589

5 ドロテ・フィッシャーとコンラート・フィッシャー、1969年 | Photo: Gerhard Richter

6 ギルバート&ジョージ〈アーチの下で(ボックス)〉1969年

7 ダン・フレイヴィン《無題(タリンのための「モニュメント」)》1967-70年 東京都現代美術館 | © 2021 Stephen Flavin/ARS, New York/JASPAR, Tokyo G2589

8 ソール・レウィット〈コンストラクション・ドローイング〉1969年 | © 2021 Sol LeWitt/ARS, New York/JASPAR, Tokyo G2589

1, 2, 3, 6, 8, 表面は全てノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館[デュッセルドルフ]蔵